

躍動するオフィスウロロジー その多様性に迫る！

企画にあたって

急速に進む高齢社会を迎えているわが国において、排尿管理などのオフィスウロロジーが果たす役割はこれまで以上に高まってきています。日本泌尿器科学会の会員数は9,200名を超え、そのうち約3割は開業医です。現場で多数の泌尿器科の患者を診ているオフィスウロロジストは、今後の日本の高齢者医療にとって、大変重要な役割を担ってきます。そこで、全国のさまざまな医療現場で躍動している先生方にご協力をいただき、皆様方の活力になるように本特集を企画しました。

オフィスウロロジストの仕事は、Medical UrologyとSurgical Urologyに分けられますが、大半は前者です。Medical Urologyとして外来診療で最も行っているのは、前立腺肥大症（BPH）と過活動膀胱（OAB）の患者の診断と薬物治療です。また、泌尿器癌、尿路性器感染症、尿路結石症、LOH症候群・ED、女性泌尿器疾患、小児泌尿器疾患などの診断と治療、さらに外来化学療法も幅広く行っています。Surgical Urologyとしては、日帰りでのBPHや泌尿器癌手術がトピックスになっており、その利点と同時に問題点もあります。そのほか、尿失禁や尿路結石症の手術も外来で行っている施設もあります。

オフィスウロロジストは、地域や医療環境の違いにより役割が異なりますが、高齢社会を迎え、直面している大きな問題は排尿に関するQOL疾患です。また、患者・患者家族・介護施設・地域との連携や病診連携、最近需要が高まっている在宅医療も重要なテーマとなっています。加えて、診療に関する「臨床力」も当然のことながら、財務に関する知識を身につけ、職員をまとめて院内を活性化できるような「経営力」も求められます。さらに、時代はまさに大きな転換期を迎えており、今後の医療現場でのAI・IoTの活用や、目下の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミック下での衛生管理も必須となっています。

このように、オフィスウロロジーでは直面する多くの課題と、期待される多岐にわたる役割がありますので、ぜひとも本特集をご一読いただけましたら幸いです。最後に、地域社会からのニーズに積極的に対応できる、意欲的なオフィスウロロジストが今後さらに増えることを期待したいと思います。

医療法人札幌会
岩澤クリニック

岩澤 晶彦